

2 平成20年 大分県教育10大ニュース

①教員採用選考試験等に係る贈収賄事件の発覚と教育行政再生に向けた取組

教員採用選考試験等をめぐり、大分県教育委員会幹部職員等が逮捕される事件が発生（6月）。事件を受け、「教育行政の抜本的な改革について」を公表し、教育委員会直属の教育行政改革プロジェクトチームを設置。平成21年度教員採用選考試験については抜本的に見直し、県人事委員会と共同実施（7月）。「一定の公職にある者等からの職務に関する働きかけについての取扱要綱」施行。プロジェクトチームによる「調査結果報告書」を発表（8月）。大分県教育行政の再生に向けて、教育行政改革の取組の方向性を示し、取組の進行管理を行う「教育行政改革推進室」を新たに設置（9月）。「校長」・「教頭等」候補者選考試験等を見直し、実施（11月～）。

②チャレンジ！おおいた国体で天皇杯・皇后杯を獲得

第63回国民体育大会「チャレンジ！おおいた国体」において、男女総合得点2,386.5点で優勝し、天皇杯を獲得。女子総合でも1,136.5点で皇后杯を獲得。カヌー、バレーボールなど8競技で、競技別総合優勝し、団体では、なぎなた、剣道、新体操など9競技16種目で優勝、個人でも自転車やレスリングなど9競技12種目で優勝を果たした。

また、団体において、県立学校の児童・生徒約22,000人が競技観戦や地域でのおもてなし活動等に参加。障スポ大会開・閉会式でも約3,000人が参加し、感動を体験。

③進む「高校改革」

国東農工高校、国東高校及び双国高校を発展的に統合し、新たに「国東高校」及び「国東高校双国校」が開校。宇佐産業科学高校に商業科を含めた総合選択制を導入（4月）。平成22年度以降の「後期再編整備計画」を策定。単位制高校（フレックスハイスクール）の校舎建設着工（11月）。

④特別支援教育推進計画の策定と、大分養護学校高等部の開設

「大分県特別支援教育推進計画」を策定し、県立特別支援学校の再編整備5か年計画がスタート（3月）。この計画に基づき、大分養護学校に高等部を新設、初年度は新校舎で生徒31人が学習（4月）。

⑤中学校第1学年に30人学級編制導入

平成16年度より小学校第1学年に30人学級編制を導入、平成18年度には生活習慣や学習習慣の確実な定着と基礎学力の一層の向上を図るため、小学校第2学年まで30人学級を拡充していたが、さらに、小学校から中学校への進学時の急激な環境の変化に伴う生徒指導上の対応や学習体制の早期確立と学力向上を図るため、新たに中学校第1学年に導入。

⑥全国規模のコンテストやスポーツ等における高校生の活躍

大分上野丘高校放送部が「第55回 NHK 杯全国高校放送コンテスト・テレビドキュメント部門」で優勝（7月）、情報科学高校ワープロ部が「第22回全国パソコン技能競技大会・団体部門及び個人」で優勝、由布高校郷土芸能部が「第32回全国高校文化祭・郷土芸能部門」で最高賞の文部科学大臣賞を受賞（8月）など相次ぐ受賞。スポーツでも、春の高校選抜大会では、大分西高校なぎなた部、日田高校ボート部、大分豊府高校男子フェンシング部などが優勝（3月）し、インターハイでも日田高校剣道部、日出暘谷高校自転車競技部、大分舞鶴高校カヌー部などが優勝（8月）するなど活躍。また、全国でも初となる、第1回九州地区高校ものづくり溶接競技大会が大分市で行われ、個人の部で、日出暘谷高校が最優秀賞を獲得するなど、大分県勢が上位を独占（10月）。

⑦県立学校耐震診断の計画前倒し

中国四川省での地震で、学校の倒壊があり、新大分県総合教育計画で平成27年度までに完了するとされていた県立学校の耐震化を、今後5年以内の目処での完了に変更、平成21年度終了予定の第2次耐震診断は、前倒しして実施することに変更。

⑧県立図書館の個人貸出1,300万冊突破と、「県民知っ得！情報コーナー」の開設

個人や地域の課題解決を支援するため、県政の重点課題に関する資料や情報を集めた「県民知っ得！情報コーナー」を新たに開設（8月）。平成7年2月の県立図書館新館開館以降の個人貸出資料数が1,300万冊を突破（12月）。

⑨9万年前の阿蘇山火砕流等による埋没林の発見と、横尾貝塚の国指定史跡答申

日田市下小竹の小野川河川敷等の発掘調査により、今から約9万年前に阿蘇山大噴火に伴う火砕流等で埋没した大量の樹木を火山灰の堆積と共に確認。佐賀県上峰町の国指定天然記念物「八藤丘陵の阿蘇4火砕流堆積物及び埋没林」以来2例目の発見（7月）。大分市横尾の「横尾貝塚」が、今から7000年～4000年前の約3000年間にわたる大規模な拠点集落跡としての価値が評価され、縄文時代の遺跡としては、県内で初めての国指定史跡答申（11月）。

⑩山本五十六の遺書等、歴史資料の発見

県立先哲史料館が「大分県先哲叢書」の10人目の人物として取り上げた、良識派海軍軍人の代表とされる海軍中将堀悌吉関係資料の調査過程で、堀悌吉と無二の親友であり、三国軍事同盟や対米英戦争に反対していたとされる山本五十六の遺書とみなされる「述志（じゅっし）」ほか、貴重な資料を発見。これまで「述志」の存在は堀悌吉の記録の中で知られていたが、その原本が確認されたことは、三国軍事同盟等当時の歴史を研究する上で極めて重要。